

# 組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名： **大学院医歯薬学総合研究科 歯学系**

部局長名： **浅海 淳一**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>教育研究組織改革の推進                  学びの強化のための諸施策の実施                  1) 大学院生のニーズの多様化と融合型教育に対応するよう一般コースと臨床専門医コースを中心とする履修コースを充実させる。                  2) 基礎系・臨床系分野が協力し歯学系独自の融合型の研究と教育を推進する。                  3) 留学生の増加に対応して、(必要に応じて)授業の英語化を進める。                  実践型社会連携教育の推進                  全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成                  4) 高い研究マインドを持つ人材を育成し、研究活動を活性化するため、歯科研修医等の研究マインドの醸成に努める。                  5) 一般コース、臨床専門医コースを中心とした大学院の説明会を学部生や研修医に向けて行い、大学院生の確保に努める。                  6) 交流協定を結んだ大学等から優秀な大学院生の留学を促進すべく、国際交流事業を促進する。</p>	<p>1) ●研究方法論基礎・応用においては、<b>すべてを英語で行うMedical Science Series</b>に加えて、半数の授業で<b>英語のスライドを用いた授業を行い、外国人留学生対策を進めた。</b>                  ●EPOKの英語授業「<b>ライフサイエンス入門</b>」を、医学系、歯学系、薬学系の英語が堪能な教員が対応して開講し、<b>外国人留学生向けの大学院履修として</b>いる。                  ●短期留学生の増加に伴い歯学部で開講している「<b>ODAPUS for Foreign Students 英語授業シリーズ</b>」を<b>大学院の留学生対象の大学院履修として開講</b>することを決定した。</p> <p>2) ●<b>歯科のみならず医科の基礎分野、臨床分野と共同研究を展開し、論文報告も盛んに行っている。</b></p> <p>3) ●<b>English lecture series 2018として1月15日～2月9日にかけて20回の講義を行った。</b></p> <p>4) ●<b>ARCOGSセミナーは毎月1回計12回、BioForumを年3回開催し、</b>分野を超えた、学外との共同研究の活性化を図っている。スタッフ、運営委員会、業績(英文編集本1冊、英文著書(分担執筆24編、原著54編(内英文48編、総説2編)著、詳細は、ホームページに掲載している (<a href="http://www.dent.okayama-u.ac.jp/arcogs/bioforum.html">http://www.dent.okayama-u.ac.jp/arcogs/bioforum.html</a>))。</p> <p>5) ●<b>本年度の歯学系の大学院生は現在29名[責任枠:32名]と充足できていないが、10月入学で、国費外国人が2名予定されており、次回の入学試験で外国人の10月入学者獲得を目指している。</b></p> <p>6) ●<b>外国人大学院生の増加に努めており、現在17名である。2018年度は7名の外国人大学院生が入学した。</b>                  ●O-NECUSプログラムにより1名を特別聴講学生として受け入れている。                  ●<b>歯科学専攻ではO-NECUSプログラムにより、歯学系で4名の中国からの留学生を受け入れており、Post-O-NECUSプログラムにより、3名の優秀な博士課程学生が入学した。</b>                  ●ベトナム北部有力医療系大学と連携する大学院コースの設置を目指し、国際異分野共同による教育研究を核とする国際社会人共同博士号取得拠点の形成事業において<b>ベトナム・ハイフォン医科大学において臨床研究デザインワークショップ、ハノイ医科大学において連携国際シンポジウムを開催した。</b>                  ●<b>将来の大学院生候補となりうる人材として、ベトナム北部2大学とインドネシア1大学(いずれも協定校)から日本滞在歴がない歯学部教員合計7名をJSTさらさらサイエンスプランにて10日～3週間招聘し、共同研究事業を行った。</b>                  ●<b>ODAPUSで5～6か月在園の学生には、研究室で研究指導を行い、将来の大学院生として再来園を期待し、実績を積ませた。</b></p>
<b>①-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>①-2 大学全体への貢献</b>
<p>1)～3)は①教育研究組織改革の推進、②学びの強化のための諸施策の実施                  4)～6)は⑥実践型社会連携教育の推進、⑦全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成にそれぞれ対応している。</p>	<p>●大学院履修コースを充実し、<b>英語授業シリーズを整備し、また、大学院(一般コース、臨床専門医コース)の説明会を研修医や臨床実習生に向けて開催し、歯学系大学院生29名を確保し、さらに10月には2名の入学が予定されている。今後衛生士等の修士課程を開設し、さらなる増員を目指す</b>予定である。                  ●<b>将来の大学院生候補となりうる人材の育成、勧誘も</b>行っている。                  ●<b>現在外国人大学院生は17名、特別聴講学生は1名で、外国人留学生の獲得にも貢献している。</b></p>
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>1) 大学院生の充足率                  2) 外国人留学生の増加</p>	<p>●<b>現在大学院生の充足には1名足りないが、10月入学で補完する</b>予定である。                  【2017年度】                  2017年4月入学(合格者) 33人 充足率:103%                  【2018年度】                  2018年4月入学 29人                  2018年10月入学 2人 充足率:96.7%                  ●<b>現在外国人大学院生は17名、特別聴講学生は1名で、外国人留学生の獲得に貢献している。</b></p>
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>研究大学「岡山大学」の構築                  若手研究者の育成事業の推進                  1) 歯学系独自の研究の推進と次世代の研究・教育者の育成のため、歯学系内での基礎研究と臨床研究の橋渡し(トランスレーショナル・リサーチ)の体制を確立し、歯学系融合型研究を推進する。                  2) 学際研究連携を推進するため、医療系部局(医学系・薬学系)あるいは医療部局外も含めての研究交流をさらに活発化させ、新たな研究シーズの発見とその応用に向けた取り組みを検討し、新しい学際研究を推進する。                  3) 臨床研究中核病院事業および橋渡し研究事業に参画し、積極的に基礎研究および臨床研究を実施する。                  4) 国立大学病院長会議での将来像GDに示された歯科PTの提言ならびに歯科臨床研究推進会議に従った、先進医療推進の中核としての口腔検査・診断センターの活動を推進する。</p>	<p>1) ●<b>若手教員が自主的に研究セミナー「バイオフィォラム」を開催している。歯学部先端領域研究センターが主催するARCOGSセミナーを分野持ち回りで開催し、分野融合型研究を促進している。</b>                  ●<b>歯学部先端領域研究センターのセンター長に、特任教授を配置、機能系及び形態系共同実験施設の一体的な運用、教育、研究面での機能の向上を図っている。本センターを中心に分野融合型研究に取り組むことを可能としている。</b></p> <p>2) ●<b>大学院医歯薬学総合研究科研究開発戦略委員会が企画、ブレインストーミング2017 at カリヨンハウス in 瀬戸内市と題して、医学系、歯学系、薬学系だけでなく、瀬戸内市長、自治医科大学学長、研究担当理事などを招いて、医療系学部が地域創成にどのような役割を担うことができるかという点について、文理融合の観点から若手教員の意見交換会を開催した。</b>                  ●<b>学際的研究として真菌由来二次代謝産物の有効利用に関する研究を、研究科内医歯薬の3学系及び自然科学研究科工学系で行っている。若手教員が自主的に行っているものであり、岡山大学次世代研究コア形成支援事業の一端として取り上げられている。</b></p> <p>3) ●<b>平成29年度橋渡し研究戦略的推進プログラムの採択を受けて、歯学系も4名の特任助教の人材を派遣している。また、来年度に向けて、歯学系からは、シーズA(7件)、シーズB(2件)の申請を行った。日本歯科医学会連合 大型研究推進委員会のプラットフォームを利用して、新しいAMEDのアカデミア発シーズ開発のスキームを歯科領域に広報している。岡山大病院が医療法上の臨床研究中核病院事業に採択されたことに関連して、歯学系では、学部レベルでレギュラトリーサイエンス入門を開講、大学院レベルで臨床研究デザインワークショップを拡充している。</b></p> <p>4) ●<b>口腔検査・診断センター運営WGを設置し、同センターの運営方針について検討した。</b></p>

<p><b>②-2 全学の組織目標との関連</b></p> <p>1)～3)は④「研究大学「岡山大学」の構築、⑤「若手研究者の育成事業の推進」に対応している。</p>	<p><b>②-2 大学全体への貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●大学が推進する文理融合の研究体制を積極的に進めた。</li> <li>●岡山大学病院が主導した初めての健常人を対象とした医師主導治験を推進した。</li> <li>●歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数、新規採択率、教員取得者率で高い水準を維持した。</li> <li>●欧文ISI掲載論文数(歯学関係)、総被引用度数(歯学関連)、国際共著率において全国でトップクラスを維持した。</li> </ul>
<p><b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>1) 欧文ISI掲載論文数 2) 総被引用度数 3) 1論文当たり相対被引用度数 4) 科学研究費採択率</p>	<p><b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●欧文ISI掲載論文数(歯学関係) 全国国立大学歯学部3位(11校中)</li> <li>●総被引用度数(歯学関連) 全国国立大学歯学部3位</li> <li>●Top1%論文の相対値 全国国立大学歯学部5位</li> <li>●Top10%論文の相対値 全国国立大学歯学部4位</li> <li>●国際共著率 全国国立大学歯学部1位</li> <li>●文部科学省科学研究費の申請及び採択率 文部科学省科学研究費の申請及び採択率に関して、歯学系及び歯科系教員(研究科+病院)による文部科学省科学研究費の継続&amp;新規応募率97.0%、新規採択率41.7%、科研費保持教員率67.0%と高い水準を維持した。</li> </ul>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p>	
<p><b>③-1 目標</b></p> <p>1) 歯科との医療連携の推進のため、医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターの活動を中心として、多職種との医療連携を促進し、人材の育成、教育、研究の充実を進める。 2) 地域の病院歯科等の医療機関と連携し、大学病院のネットワーク化を進めるためのシステムの構築を図り、大学病院を中心とした地域連携を促進することによって中核病院としての機能の充実を図る。 3) 各専門診療科は、患者サービスの向上を図り、より利用される病院を目指す。</p>	<p><b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <p>1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●厚生労働省造血幹細胞移植医療体制整備事業の造血幹細胞移植推進拠点病院事業の一環として、造血幹細胞移植における口腔内管理の人材育成、教育、研究の充実を行った。</li> <li>●医療支援歯科治療部は日本がん口腔支援療法学会第3回学術大会を主催し研究の充実を進めた。</li> <li>●医療支援歯科治療部が主体で、岡山市からの委託事業の一環として、岡山市多職種連携等調査研究事業「がん治療と歯科治療」を開催した。さらに、がん治療を受けている患者における歯科治療・口腔ケアの標準的な方法を地域の歯科医療機関に広げ、岡山市内の医療歯科連携ネットワークづくりのために、岡山市との連絡会を開催した。</li> <li>●スペシャルニーズ歯科センターが主体で、岡山大学公開講座として、「食支援ネットワーク」を定期的に開催し、多職種の医療連携を促進し、人材の育成を進めた。</li> <li>●小児歯科が「母と子の歯科外来」を設置し、小児科を中心とした小児関連の歯科診療科と連携し、重度の疾患を持つ小児の口腔の健康の維持・増進を図る専門外来を始めた。</li> </ul> <p>2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムの一環として、「第9回歯科・口腔外科インテンシブコース」及び「多職種連携でがん患者の食を支援する取り組み」ワークショップを開催した。</li> <li>●岡山県歯科医師会及び岡山大学病院との共催で、「いい歯の日」県民公開講座として、認知症をテーマとした講演会を開催した。</li> <li>●岡山市多職種連携等調査研究事業の委託を受け、がん患者等への支持的な歯科医療連携を促進する連絡会議を設置、市内の医療関係者を対象に2回講習会を開催した。</li> </ul> <p>3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歯科特有の感染対策を検討するための組織として、歯科系感染対策連絡協議会を設置し、毎月開催し、歯科外来における感染対策を充実させた。</li> <li>●病棟11階VIPルームに設置された歯科診療室を開設するにあたり歯科ワーキングを設置し、運用を検討した。</li> <li>●海外からの歯科患者をスムーズに受け入れるために、「外国人患者受入歯科ワーキング」を設置し、整備を開始した。</li> <li>●口腔インプラント専門外来を発展させるためにセンター化に向けてワーキングを設置した。</li> <li>●患者サービス向上のために、病院HPおよび受付サイネージに、歯科専門外来などの各診療科の専門的診療を紹介する内容を掲載した。</li> </ul>
<p><b>③-2 全学の組織目標との関連</b></p> <p>1)～3)は ⑥「実践型社会連携教育の推進」 ⑦「全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成」に対応している。</p>	<p><b>③-2 大学全体への貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医療歯科連携教育体制の構築—」を岡山大学が主催し全国展開を推進した。</li> <li>●歯学部臨床実習において、在宅訪問歯科の実践を学ばせるために、地域の歯科医療機関と連携して、全学生に在宅訪問歯科の現場での臨床実習をさせた。</li> <li>●4学期制を利用した研究室配属と短期留学制度を推進し、海外派遣と受入れに貢献した。</li> <li>●外来総患者数、診療総報酬請求額において、前年度を上回った。</li> </ul>
<p><b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>1) 歯科系外来患者数 2) 歯科系診療報酬請求額総額</p>	<p><b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外来総患者数：平成29年4月～平成30年1月までの外来総患者数は137,111人で、昨年度よりも約4千5百人(約3.5%)増加した。全国国立大学歯科系附属病院5位(11校中)。</li> <li>●診療総報酬請求額：平成29年4月～平成30年1月までの診療総報酬請求額は1,350,456円で、昨年度よりも約5千万円(約4%)増加した。全国国立大学歯科系附属病院4位(11校中)。</li> </ul>
<p><b>④管理運営領域</b></p>	
<p><b>④-1 目標</b></p> <p>1) 学部内資源の再配分による教員配置の最適化を進め、部局組織の活性化を図る。 2) 女性教員の採用および昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進する。 3) 安全衛生および法律遵守のための講習会への参加を徹底する。ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図る。</p>	<p><b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歯学部RI実験施設は、歯学部発足時に建設され、1982年から運用されていたが、効率化を図るため、2017年度に廃止し、鹿田施設に統合した。</li> <li>●歯学部動物実験施設は、歯学部発足時に建設され、1982年から運用されていたが、効率化を図るため、利用をコンパクトにし、歯学部動物実験室とした。</li> </ul> <p>2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●女性教員の採用及び昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進した。</li> </ul> <p>3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。</li> <li>●ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図った。</li> </ul>
<p><b>④-2 全学の組織目標との関連</b></p> <p>1) は部局運営体制の改善強化、部局組織の活性化 2) はダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等) 3) は⑩「法令遵守の徹底」にそれぞれ対応している。</p>	<p><b>④-2 大学全体への貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歯学部RI施設を廃止し、教員配置の最適化を進めた。</li> <li>●歯学教育・国際交流推進センターを併任し、教員配置の最適化を進めた。</li> <li>●歯学部動物実験施設のコンパクト化を行った。</li> <li>●女性教員数の割合は20.5%である。</li> </ul>

<p><b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>1)女性教員の割合 2)安全衛生および法律遵守のための講習会への参加 講習会の回数 参加数</p>	<p><b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>1) <b>女性教員の割合</b>(H30.03.01現在): <b>122人中25人(20.5%)</b>(研究科籍:84人中17人:20%、病院籍:38人中8人:21%) 2)安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。回数、参加数に関しては確認できなかった。</p>
--	---

**【総括記述欄】**

教育、研究、社会貢献すべてにおいてよい状況を保っている。教育では、大学院履修コースにおいて、「ODAPUS for Foreign Students 英語授業シリーズ」を、大学院講義として開講を進める等、英語化を進めている。歯学系の責任者の大学院生をほぼ確保し、外国人も17含んでいる。また、外国人特別聴講学生も1名迎え、医歯科学専攻O-NECUSプログラムから3名の博士課程学生を獲得する等、外国人留学生の獲得を推進する体制を整えている。海外においても、医療系大学と連携する大学院コースの設置を目指し、国際異分野共同による教育研究を核とする国際社会人共同博士号取得拠点の形成事業を推進している。研究では、歯学系融合型研究を進め、また大学が推進する文理融合の研究体制整備を積極的に進め、研究科内医歯薬の3学系及び自然科学研究科工学系で若手教員が自主的に行っている真菌由来二次代謝産物の有効利用に関する研究が岡山大次世代研究コア形成支援事業の一端として取り上げられた。文部科学省科学研究費の申請及び採択率において、高い水準を維持した。欧文ISI掲載論文数(歯学関係)、総被引用度数、国際共著率において全国でトップクラスを維持した。世界ランキングで36位を獲得した。社会貢献では、「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」の推進、医療連携の推進、地域連携の推進、口腔インプラント専門外来のセンター化を進める等、岡山の中枢病院としての地域貢献に努めた。管理運営では、施設の廃止、統合を推進し、人員配置を見直し、再配置を行った。